

もっと「おおたの同友」を知ろう！ 参加しよう！

O T A • N O • D O Y U

おおたの同友

東京中小企業家同友会 大田支部 ◎ 広報誌リニューアル10号

広報委員会

おおたの同友 リニューアル10号 (2017年7月発行)
 広報委員長: 針谷周作 (コトノハ株式会社)
 広報委員会: 島村亮 (株式会社ルミナス)
 発行: 東京中小企業家同友会大田支部
 編集制作: コトノハ株式会社

入会のご希望は、東京中小企業家同友会大田支部
 → ☎03-3261-7201

2017年度支部スローガン

自らを高め 経営を伸ばす

～楽しむ心でVISIONを描け～



大田支部長
有倉 将人
(株)日本デジタル通信

2017年度より支部長として2年目を迎えて
 いただくこととなりました。

昨年度は至らない点も多々あったかと思いますが、
 本年度も大田支部会員の皆様のお役に立てるよう一層
 努力してまいりますので会員の皆様のご協力を賜りま
 すようお願い申し上げます。

さて、2017年の日本経済は米国経済や周辺国の
 影響が不安視されるなど、企業の景気見通しは「分か
 らない」が急増するというまさに不透明感漂う一年に
 なりそうな気配です。

また、大企業を中心として長時間労働の是正が重要
 課題として取り上げられている中、中小企業ではな
 かなか手を打てないという企業もあるのではないでし
 ょうか。それだけではなく、人材採用に際しても中小企
 業にとって困難さは増し人手不足も深刻な状況になっ
 てくることと思います。

中小企業にとっては、それぞれが創意工夫を凝らし
 多様性、激動する社会への変化対応がますます求めら
 れるのではないのでしょうか。

以上のように大田支部会員にとっても厳しさは続く
 と思いますが、今こそ、会員同士が多くの経験、知識、
 知恵を出し合い、切磋琢磨して経営者自身が成長し企
 業を発展させていかなければならないと感じます。

2017年度は大筋で昨年の方針を受け継ぎ、同友
 会理念のもと、経営を真剣に学び、人間力を高め、そ
 れぞれの経営を伸ばすための会という本来のカタチを
 しっかりと作っていきけるような会運営を進めていき
 たいと考えています。

繰り返しますが皆様のご協力、そしてご指導
 ご鞭撻を何卒よろしくお願い申し上げます。

大田支部会員状況と報告

NEWS

- ◎会員数報告 2017年度期首170名 現在167名(目標177名)
- ◎8月には大田支部納涼会が、10月には社員交流企画の
 スポーツイベントが開催されます(裏ページ参照)。
- ◎各例会の登録は、大田支部のホームページでも行えます。
 アドレスは、<http://www.ota-doyu.com>です。
- ◎「おおたの同友」についてご意見、ご感想がありましたら、
 事務局アイダまでご連絡ください。

大田支部の新しい部会の紹介

● 人事労務研究会 ●

2017年2月の一泊幹事会で誕生した
 (株)ヒューマンフォワードの柴田実氏と
 川島労務経営コンサルティングオフィ
 スの川島寛氏による研究会。助成金を
 活用した社員の生産性向上策につ
 いての発表などを行なっている。

● きらりと光る経営の会 ●

(株)ルミナスの島村亮氏が立ち上げた
 クローズドな研究会。(株)井上製作所の
 井上氏、寺嶋社労士事務所の寺嶋氏、
 コトノハ(株)の針谷氏、(株)保坂商店の
 大井氏の4名で100年続く企業を目指し
 研究を行なっている。

活動方針

- 同友会活動を通じた業績向上
- 新会員、既存会員のフォローと交流を深める
- 社員とともに参加し学べる同友会
- 女性部との連携・活性化と支部の多様性を高める

① 同友会活動を通じた業績向上

(1) 部会・委員会の活性化(意義目的の明確化)
 昨年の新たな活動の創出によって生まれた部会の活性化はもちろんのこと、既存部会として
 委員会のそれぞれの活動の意義目的を改めて明確にしてもらい、それに向けた力強い実践を
 サポートします。

(2) 支部例会の活性化

まずは、本年度の大田支部スローガンに沿った例会づくりを徹底します。
 そして、より早い段階での準備、また準備段階からより多くの人が関わられるよう幹事会がサ
 ポートし、発表者、報告者、そして参加会員にとって学びになるよう企画づくりを進めます。
 更に支部例会への会員の参加をもつて活性化の度合いを測っていきたくと考えております。

② 新会員、既存会員のフォローと交流を深める

(1) 新会員さんに参加の声掛けをし、さらに例会等での居場所づくりのお手伝いをします。
 (2) ブロック会の活性化
 会員さんに参加を呼びかけ世代を超えた交流の場とします。
 会員紹介や勉強会等の場としても活用し、支部活動の基としての位置づけを強めます。

(3) 新たな交流が創出されるような風土創り
 部会、同好会に関わらず新たな活動や交流が自由に発生していくような会の雰囲気醸成します。

③ 社員とともに参加し学べる同友会

経営者が参加して学ぶことはもちろん、社員も参加して交流できる機会を創ります。
 自社だけでは企画できないような研修や良く知った仲間同士だからできる交流など、学びと
 同時に各企業の団結力アップの一助となるような活動を企画します。

④ 女性部との連携・活性化と支部の多様性を高める

(1) 東京同友会女性部との積極的な交流を深めます。
 女性部への参加、また大田支部への参加のお誘いを通じて交流を深め、女性経営者からの学
 びを得ると同時に大田支部内の女性会員が参加できる場づくりと活動活性化を図ります。
 (2) 同友会会員に関わらず大田区内の外部機関、他団体等とも積極的に関わりを持つ。

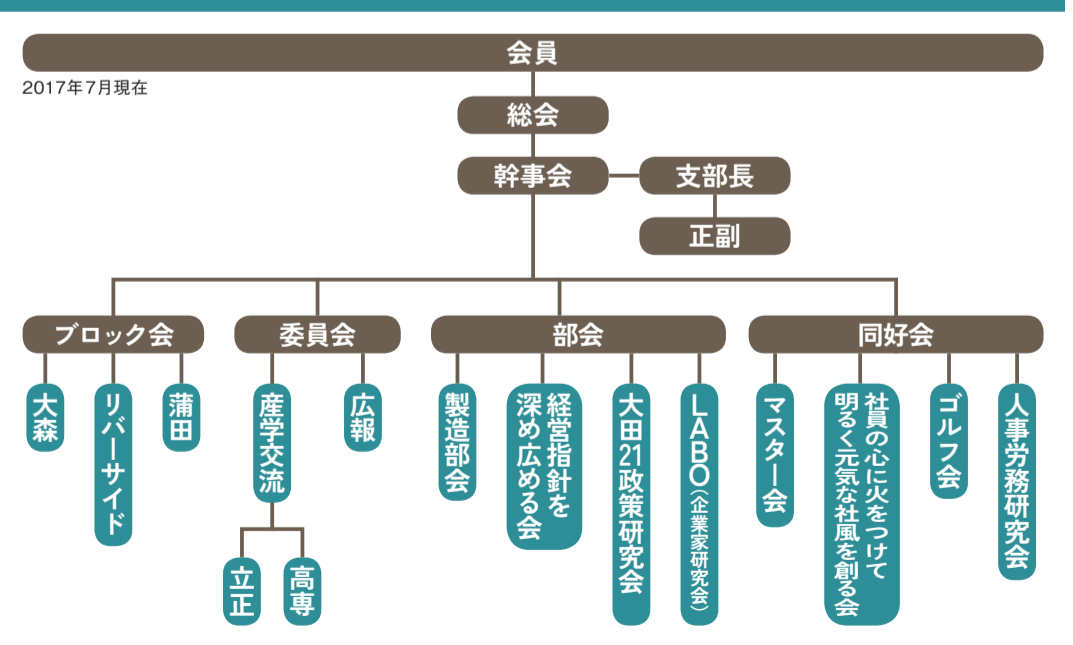
スケジュール

Schedule

大田支部組織図

Organization chart

月日	担当ブロック	カテゴリ	場所	報告者/講師
8月8日	経営指針を 深め広める会	経営指針を深め広める会	Luz大森 (入新井集会所)	部会長: 高萩敦之氏
8月22日	LABO	会議の進め方を考える(続編)	Luz大森 (入新井集会所)	部会長: 寺嶋卓氏
8月24日	広報	大田支部納涼会+フォークソングと ミニ報告会☆「明日笑えるように」。	田園調布倶楽部	委員長: 針谷周作氏
9月5日	経営指針を 深め広める会	経営指針を深め広める会	Luz大森 (入新井集会所)	部会長: 高萩敦之氏
9月11日	製造部会	製造部会	大田区産業プラザ Pio (6階 C会議室)	部会長: 渡辺大氏
9月13日	幹事会	「全員が考え・行動できる会社へ」 ☆(株)吉村 橋本久美子社長が登場!	大田区産業プラザ Pio (6階 C会議室)	
9月19日	LABO	自社の経営課題を本気で考えよう	Luz大森 (入新井集会所)	部会長: 寺嶋卓氏
10月3日	経営指針を 深め広める会	経営指針を深め広める会	Luz大森	部会長: 高萩敦之氏
10月17日	LABO	調査とはなんだ!(マーケティング)	Luz大森	部会長: 寺嶋卓氏
10月28日		社員交流企画「運動会」(仮)	大田区総合体育館	皆川明氏



同友会大田支部が主催するイベント情報は、同友会大田支部ホームページ <http://www.ota-doyu.com> にアクセス

6月例会報告 産学官金をいかに連携させるか？ 危機感からの展開～真の第二創業に向けた技術革新

日本ウイントン(株) 代表取締役 **大廻和彦氏**

**設立後30年で残っている会社は0.021%。
大きくなることより継続することが大事。**

10年後に会社が存続している可能性は6.3%。20年で0.4%、30年で0.021%。大変なことです。資金力のない中小企業がどうやって生き残っていくのか。経営者は会社を大きくすることよりも、存続させていくことが大事だと考えます。

私どもの会社である日本ウイントンは、空調の衛生的メンテナンスを行う会社です。ビルの中の空気の通り道であるダクト。この清掃を主に行なっています。

2001年12月、バブル時代の負の遺産で経営が立ち行かなくなり、世界で一番大きなビル管理会社であるサービスマスターの日本法人傘下に入ることになりました。創業者の退任と自己破産を行なった上で、日本法人傘下に入り、正社員200名とパート・アルバイトを含め500名以上の従業員、そして500棟あった顧客を守ることができました。

しかし、新しい外資オーナーが、アメリカで相次いだ空気汚染に関する訴訟を見て、日本ウイントンを解体し、優秀な社員を他に使いたいという話ができました。

私はこれまでの仕事を放り出すことはできないと、日本ウイントンの存続に向けて当時の中小企業では真新しかったMBO(マネージングバイアウト)を使い、自己資金プラスさまざまなところから資金調達を試み、2004年にMBOをして代表取締役に就任しました。

そうしたところ、いままでは親会社に支払っていた管理費等もなくなり、高収益の会社として再スタートできました。

しかし、創業から30年を迎えた2010年ごろから売上げが落ち込み、さらに2011年3月11日の大震災の発生と重なり2年連続

で大幅な赤字を出してしまい、従来のビジネスモデルの限界を実感しました。

そして、未開拓であった住宅市場への参入を目指しました。新規事業を立ち上げるにあたっては、人的投資、設備投資など資金が必要となってきます。

そのため、資金力の乏しい中小企業は公的資金を活用することも選択肢の一つだと思います。当社ではまず新規事業の分野で「経営革新計画」の認定を取得しました。これを取り組んで感じたのは、自分がやりたいことのために何をすべきかが体系的に理解できたことです。認定を受けると、優遇制度が準備されています。経営革新計画では、大学と共同でダクト清掃用ミズロボットの開発が事業の肝となっていたので、その開発費用の一部を「ものづくり補助金」で調達することができました。そこで開発したミズロボットのプロトタイプを、東京都の市場開拓助成金を活用して展示会等に出展しハウスメーカー等のニーズを吸い上げることをしています。申請書作成等のノウハウがなくても、「東京都よろず支援拠点(経産省委託事業：信用金庫協会受託)」が、事業計画や申請書作成などの支援を活用しました。今後は「事業継続力強化認定」や中小企業振興公社の「事業可能性評価事業」などに取り組み、実効性のある事業計画を構築し新規事業を軌道に乗せていきたいと思っています。

30数年、この業界にいますのでアイデアはあるのですが資金がない。それを公的助成金を上手に活用することで諦めなくてもよくなる環境づくりをしています。

私どものダクト清掃業は、人々の健康にお役立ちする「健康産業である」という高い志でやっています。現在、自己破産をした先代には、技術研修の講師をしていただいています。違いを認め、個性と可能性を開花させることで会社を伸ばしていきます。



報告者



大田支部の新しい部会

今年度から新たに誕生した2つの部会(製造部会・LABO)に参加してきました。広報委員会の針谷が取材をしてくきましたので、そのレポートをお届けします。

製造部会参加レポート

今年の一泊幹事会で(株)ルミナスの島村亮社長の発案にて、大田支部内に「大田区の製造業、並びに日本のものづくりを活性化させる！」を目標に掲げ、新たに製造部会が立ち上がった。部会長は(株)芝橋の渡辺大社長。副部会長は(株)井上製作所の井上健太郎社長が務める。

6月12日に開催された製造部会では、支部会員企業である大橋製作所で、大橋社長が経営理念の組み立てを行い、どうやってそれを現場に落とし込んでいくのかを見学。その見学会についてそれぞれの感想を発表した。

7月10日には、1912年の創業以来、年間5000種を超える試作実績を持つ自動車部品製作、医療用機器設計・製作のタマチ工業(株)の主工場である西富士工場を訪ねた。まだまだはじまったばかりの部会だが、大田区の製造業を盛り上げる意味でも、今後の活動が期待される。



LABO参加レポート

以前は経営指針の会で部会長を担当していた足立支部の寺嶋社会保険労務士事務所 寺嶋氏が新たに大田支部に立ち上げた「LABO(企業家研究会)」。寺嶋部会長が、大田支部に転籍しての気合を入れたの会というところもあり、6月20日に大森LAZで開催された当部会に取材に行った。

経営者にとって大切なのは社員の発する「言葉」の裏側にどんな思いがあるのかを探ること。例えば社員が、「私はその仕事は今ではできません」と言った際、どう返答するかと問う。この発言を分析すると、「今」だからできないのか、自分にその能力がないからできないのかなど、さまざまな意味を読み取る



自己紹介は、人が聞いていて飽きない1分間でスピーチできるような300字で作成。それぞれが発表を行った。話を3つほどの単語でメモし理解できれば、いい自己紹介なのだそう。LABOでは今後、立正大学の学生などを交えての企画も考案中。大田支部では珍しい、実践的な部会にぜひご参加ください。

参加会社求む！

夏と秋のイベント2つ！

いつもより暑い夏がやって来た！大田支部が送る2つの夏のイベント。そして社員が作り上げるイベント企画の2つ！

< **8月24日(木)** >

「大田支部納涼会＋
フォークソングとミニ報告会」
「明日笑えるように」。



今年の大田支部納涼会は、多摩川駅にある田園調布倶楽部にて「フォークソングとミニ報告会《明日笑えるように》」と題したイベントを開催します。地元をはじめ全国各地で活躍する唐津出身のフォークシンガー・保利太一さんが、辛い時代を笑って乗り越えられる歌を歌い会を盛り上げます。みなさんの知っている歌も登場するかも？そして歌の合間に、大田支部広報の針谷氏が自社で発行している『街の手帖』というローカル誌を作る中で出会った街の話、人の話をします。いまより地元が好きになる話、ぜひご参加ください。

< **10月28日(土)** >

「社員交流企画」(仮題)

昨年の夏、大田支部で開催した「アナタと会社を元気に！同友会の運動会」は、参加企業で働く社員たちが主体となり、多くの参加者に恵まれた一大イベントとなりました。今年も、昨年のメンバーが企画を行い、「社員交流企画」のイベントが10月28日、大田区総合体育館にて開催されます。

今年のイベントでは、14時に開会を行い、体を使ったスポーツを行ったのち、最後は地元・大田区で活躍するプロバスケットチーム「アースフレンズ東京Z」の試合を観戦する予定です。現在、(有)ミナガワの皆川社長をはじめ、当日の内容について社員とともに煮詰めているところです。スポーツの秋、社員とともにスポーツに興じましょう。

